



# バケットの処理

## StorageGRID 11.7

NetApp  
April 12, 2024

# 目次

バケットの処理 .....	1
バケットのカスタム処理 .....	8

# バケットの処理

StorageGRID システムでは、S3 テナントアカウントあたり最大 1、000 個のバケットがサポートされます。

バケット名にはAWS US Standardリージョンの制限事項が適用されますが、S3仮想ホスト形式の要求をサポートするためにDNSの命名規則にも制限する必要があります。

詳細については、次を参照してください。

- ["Amazon Web Services \(AWS\) ドキュメント：「Bucket Restrictions and Limitations」](#)
- ["S3エンドポイントのドメイン名を設定"](#)

GET Bucket (List Objects) 処理と GET Bucket versions 処理では、StorageGRID の整合性制御がサポートされます。

最終アクセス時間の更新が個々のバケットで有効になっているか無効になっているかを確認することができません。

次の表に、StorageGRID での S3 REST API バケット処理の実装方法を示します。これらの処理を実行するには、アカウントに必要なアクセスクレデンシャルが付与されている必要があります。

操作	実装
バケットを削除します	この処理では、バケットが削除されます。
バケットの CORS を削除します	この処理は、バケットの CORS 設定を削除します。
バケットの暗号化を削除	この処理は、バケットからデフォルトの暗号化を削除します。既存の暗号化オブジェクトは暗号化されたままですが、バケットに追加された新しいオブジェクトは暗号化されません。
バケットライフサイクルを削除	この処理は、バケットからライフサイクル設定を削除します。を参照してください <a href="#">"S3 ライフサイクル設定を作成する"</a> 。
バケットポリシーを削除	この処理は、バケットに関連付けられているポリシーを削除します。
バケットレプリケーションを削除します	この処理は、バケットに関連付けられているレプリケーション設定を削除します。
バケットのタグ付けを削除します	この処理にはを使用します tagging サブリソース：バケットからすべてのタグを削除します。

操作	実装
GET Bucket (ListObjects) (ListObjectsV2)	<p>この処理は、バケット内のオブジェクトの一部またはすべて（最大 1、000）を返します。を使用してオブジェクトを取り込んだ場合でも、オブジェクトのストレージクラスには2つの値が設定されます REDUCED_REDUNDANCY ストレージクラスのオプション：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・`STANDARD`を指定します。このオブジェクトは、ストレージノードで構成されるストレージプールに格納されます。</li> <li>・`GLACIER`を指定します。このオブジェクトは、クラウドストレージプールで指定された外部バケットに移動されています。</li> </ul> <p>バケットに同じプレフィックスを持つ削除済みキーが多数含まれている場合、応答に一部のキーが含まれることがあります CommonPrefixes 鍵が入っていないものです</p>
GET Bucket Object versions (ListObjectVersions)	バケットに対する読み取りアクセスで、を使用した処理 <code>versions</code> サブリソースには、バケット内のオブジェクトのすべてのバージョンのメタデータが表示されます。
GET Bucket ACL の場合	この処理では、バケットの所有者にバケットに対するフルアクセスがあることを示す応答が返され、所有者の ID、表示名、および権限が表示されます。
GET Bucket CORS	この処理を実行するとが返されます <code>cors</code> バケットの設定。
GET Bucket encryption	この処理は、バケットのデフォルトの暗号化設定を返します。
GET Bucket lifecycle (GetBucketLifecycleConfiguration)	この処理は、バケットのライフサイクル設定を返します。を参照してください <a href="#">"S3 ライフサイクル設定を作成する"</a> 。
GET Bucket location の各ノードで使用でき	この操作は、を使用して設定されたリージョンを返します LocationConstraint PUT Bucket要求の要素。バケットのリージョンがの場合 `us-east-1`を指定すると、リージョンに対して空の文字列が返されます。
GET Bucket notification (GetBucketNotificationConfiguration)	この処理は、バケットに関連付けられている通知設定を返します。
GET Bucket policy の場合	この処理は、バケットに関連付けられているポリシーを返します。
GET Bucket replication	この処理は、バケットに関連付けられているレプリケーション設定を返します。

操作	実装
GET Bucket tagging	この処理にはを使用します tagging サブリソース：バケットのすべてのタグを返す
GET Bucket versioning	<p>この実装ではを使用します versioning サブリソース：バケットのバージョン管理の状態を返します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>blank</i>: バージョン管理は有効になっていません (バケットはバージョン管理されていません)</li> <li>• 有効: バージョン管理が有効になっています</li> <li>• 中断: バージョン管理は以前有効になっていて、中断されています</li> </ul>
オブジェクトロック設定の取得	<p>この処理では、バケットのデフォルトの保持モードとデフォルトの保持期間 (設定されている場合) が返されます。</p> <p>を参照してください <a href="#">"S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定します"</a>。</p>
HEAD Bucket (ヘッドバケット)	<p>この処理は、バケットが存在し、そのバケットへのアクセス権限があるかどうかを判断します。</p> <p>この処理から返される情報は次の</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>x-ntap-sg-bucket-id</code>: バケットのUUID (UUID形式)。</li> <li>• <code>x-ntap-sg-trace-id</code>: 関連付けられた要求の一意のトレースID。</li> </ul>

操作	実装
PUT Bucket の場合	<p>この処理は、新しいバケットを作成します。バケットを作成すると、そのバケットの所有者になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• バケット名は次のルールを満たす必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ StorageGRID システム全体で（テナントアカウント内だけでなく）一意である必要があります。</li> <li>◦ DNS に準拠している必要があります。</li> <li>◦ 3 文字以上 63 文字以下にする必要があります。</li> <li>◦ 1 つ以上のラベルを連続して指定できます。隣接するラベルはピリオドで区切ります。各ラベルの先頭と末尾の文字は小文字のアルファベットか数字にする必要があります、使用できる文字は小文字のアルファベット、数字、ハイフンのみです。</li> <li>◦ テキスト形式の IP アドレスのようにはできません。</li> <li>◦ 仮想ホスト形式の要求でピリオドを使用しないでください。ピリオドを使用すると、サーバワイルドカード証明書の検証で原因の問題が発生します。</li> </ul> </li> <li>• デフォルトでは、バケットは作成されます us-east-1 リージョン。ただし、を使用することはできません LocationConstraint 別のリージョンを指定するように要求本文内の要求要素。を使用する場合 LocationConstraint 要素：Grid Managerまたはグリッド管理APIを使用して定義されているリージョンの正確な名前を指定する必要があります。使用するリージョン名がわからない場合は、システム管理者にお問い合わせください。</li> <li>• 注： StorageGRID で定義されていないリージョンを PUT Bucket 要求で使用すると、エラーが発生します。</li> <li>• を含めることができます x-amz-bucket-object-lock-enabled S3オブジェクトのロックを有効にしてバケットを作成する要求ヘッダー。を参照してください <a href="#">"S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定します"</a>。</li> </ul> <p>バケットの作成時に S3 オブジェクトのロックを有効にする必要があります。バケットの作成後にS3オブジェクトロックを追加または無効にすることはできません。S3 オブジェクトロックにはバケットのバージョン管理が必要です。バケットの作成時に自動的に有効になります。</p>
PUT Bucket CORS	<p>この処理は、バケットの CORS 設定を指定し、クロスオリジン要求を処理できるようにします。Cross-Origin Resource Sharing（CORS）は、あるドメインのクライアント Web アプリケーションが別のドメインのリソースにアクセスできるようにするセキュリティ機能です。たとえば、というS3バケットを使用すると images グラフィックを保存します。のCORS設定を指定します images バケットを使用すると、そのバケット内の画像をWebサイトに表示できます <a href="http://www.example.com">http://www.example.com</a>。</p>

操作	実装
PUT Bucket encryption	<p>この処理は、既存のバケットのデフォルトの暗号化状態を設定します。バケットレベルの暗号化が有効な場合は、バケットに追加されたすべての新しいオブジェクトが暗号化されます。StorageGRID では、StorageGRID で管理されるキーによるサーバ側の暗号化がサポートされます。サーバ側の暗号化設定ルールを指定する場合は、を設定します SSEAlgorithm パラメータの値 AES256 を使用しないでください `KMSMasterKeyID` パラメータ</p> <p>バケットのデフォルトの暗号化設定は、オブジェクトのアップロード要求ですすでに暗号化が指定されている場合（要求にが含まれている場合）は無視されます x-amz-server-side-encryption-* 要求ヘッダー）。</p>
PUT Bucket lifecycle の場合  (PutBucketLifecycleConfiguration)	<p>この処理は、バケットの新しいライフサイクル設定を作成するか、既存のライフサイクル設定を置き換えます。StorageGRID では、1つのライフサイクル設定で最大 1、000 個のライフサイクルルールがサポートされます。各ルールには、次の XML 要素を含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 有効期限（日数、日付）</li> <li>• NoncurrentVersionExpiration（NoncurrentDays）</li> <li>• フィルタ（プレフィックス、タグ）</li> <li>• ステータス</li> <li>• ID</li> </ul> <p>StorageGRID では、次のアクションはサポートされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• AbortIncompleteMultipartUpload の略</li> <li>• ExpiredObjectDeleteMarker</li> <li>• 移行</li> </ul> <p>を参照してください <a href="#">"S3 ライフサイクル設定を作成する"</a>。バケットライフサイクルのExpirationアクションとILMの配置手順の相互作用については、を参照してください <a href="#">"オブジェクトのライフサイクル全体にわたる ILM の動作"</a>。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 注：バケットライフサイクル設定は S3 オブジェクトロックが有効なバケットで使用できますが、従来の準拠バケットではバケットライフサイクル設定がサポートされません。</li> </ul>

操作	実装
PUT Bucket notification  (PutBucketNotificationConfiguration)	<p>この処理は、要求の本文に含まれる通知設定 XML を使用してバケットの通知を設定します。実装に関する次の詳細事項に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• StorageGRID では、Simple Notification Service ( SNS ) のトピックがデスティネーションとしてサポートされます。Simple Queue Service ( SQS ) または Amazon Lambda エンドポイントはサポートされていません。</li> <li>• 通知のデスティネーションは、StorageGRID エンドポイントの URN として指定する必要があります。エンドポイントは、Tenant Manager またはテナント管理 API を使用して作成できます。</li> </ul> <p>通知設定が機能するためには、エンドポイントが存在している必要があります。エンドポイントが存在しない場合は、400 Bad Request エラーがコードとともに返されます InvalidArgument。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 次のイベントタイプに対して通知を設定することはできません。これらのイベントタイプは * サポートされていません。             <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ s3:ReducedRedundancyLostObject</li> <li>◦ s3:ObjectRestore:Completed</li> </ul> </li> <li>• StorageGRID から送信されるイベント通知は標準のJSON形式を使用しますが、次のリストに示すように、一部のキーが含まれず、他のキーには特定の値が使用されます。             <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ * eventSource*  sgws:s3</li> <li>◦ * awsRegion *  含まれません</li> <li>◦ * x-amz-id-2 *  含まれません</li> <li>◦ * arn *  urn:sgws:s3:::bucket_name</li> </ul> </li> </ul>
PUT Bucket policy の場合	<p>この処理は、バケットに関連付けられているポリシーを設定します。</p>



操作	実装
PUT Bucket replication	<p>この操作は、を設定します <a href="#">"StorageGRID CloudMirrorレプリケーション"</a>（バケット用）。要求の本文に含まれるレプリケーション設定XMLを使用します。CloudMirror レプリケーションについては、実装に関する次の詳細事項に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>StorageGRID では、V1 のレプリケーション設定のみがサポートされます。つまり、StorageGRID では、の使用はサポートされていません Filter ルールのエレメント。V1の規則に従ってオブジェクトバージョンを削除します。詳細については、を参照してください <a href="#">"レプリケーション設定に関する Amazon S3 のドキュメント"</a>。</li> <li>バケットレプリケーションは、バージョン管理されているバケットでもバージョン管理されていないバケットでも設定でき</li> <li>レプリケーション設定 XML の各ルールで異なるデスティネーションバケットを指定できます。1つのソースバケットを複数のデスティネーションバケットにレプリケートできます。</li> <li>デスティネーションバケットは、テナントマネージャまたはテナント管理 API で指定された StorageGRID エンドポイントの URN として指定する必要があります。を参照してください <a href="#">"CloudMirror レプリケーションを設定します"</a>。</li> </ul> <p>レプリケーション設定が機能するためには、エンドポイントが存在している必要があります。エンドポイントが存在しない場合は、として要求が失敗します 400 Bad Request。エラーメッセージ：Unable to save the replication policy. The specified endpoint URN does not exist: URN.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>を指定する必要はありません Role 設定XMLを使用します。この値は StorageGRID では使用されず、送信されても無視されます。</li> <li>設定XMLでストレージクラスを省略した場合、StorageGRID ではを使用します STANDARD デフォルトのストレージクラス。</li> <li>ソースバケットからオブジェクトを削除する場合、またはソースバケット自体を削除する場合、クロスリージョンレプリケーションは次のように動作します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>レプリケートの前にオブジェクトまたはバケットを削除した場合、オブジェクトまたはバケットはレプリケートされず、通知も送信されません。</li> <li>レプリケートのあとにオブジェクトまたはバケットを削除すると、StorageGRID は、V1 のクロスリージョンレプリケーションに対する Amazon S3 の通常の削除動作に従います。</li> </ul> </li> </ul>

操作	実装
PUT Bucket tagging	<p>この処理にはを使用します tagging サブリソース：バケットの一連のタグを追加または更新できます。バケットタグを追加する場合は、次の制限事項に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>StorageGRID と Amazon S3 はどちらもバケットごとに最大 50 個のタグをサポートします。</li> <li>バケットに関連付けられているタグには、一意のタグキーが必要です。タグキーには Unicode 文字を 128 文字まで使用できます。</li> <li>タグ値には、Unicode 文字を 256 文字以内で指定します。</li> <li>キーと値では大文字と小文字が区別されます。</li> </ul>
PUT Bucket versioning の場合	<p>この実装ではを使用します versioning サブリソース：既存のバケットのバージョン管理の状態を設定できます。バージョン管理の状態は、次のいずれかの値に設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Enabled：バケット内のオブジェクトに対してバージョン管理を有効にします。バケットに追加されるすべてのオブジェクトに、一意のバージョン ID が割り当てられます。</li> <li>Suspended：バケット内のオブジェクトに対してバージョン管理を無効にします。バケットに追加されるすべてのオブジェクトに、バージョンIDが割り当てられません null。</li> </ul>
PUT Object Lock の設定を指定します	<p>この処理は、バケットのデフォルト保持モードとデフォルトの保持期間を設定または削除します。</p> <p>デフォルトの保持期間を変更した場合、既存のオブジェクトバージョンの retain-until はそのまま残り、新しいデフォルトの保持期間を使用して再計算されることはありません。</p> <p>を参照してください <a href="#">"S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定します"</a> を参照してください。</p>

## 関連情報

["整合性制御"](#)

["GET Bucket last access time の場合"](#)

["バケットとグループのアクセスポリシーを使用"](#)

["監査ログで追跡される S3 処理"](#)

## バケットのカスタム処理

StorageGRID システムでは、S3 REST API に追加されたシステム固有のカスタムバケット処理をサポートしています。

次の表に、StorageGRID でサポートされるカスタムバケット処理を示します。

操作	説明	を参照してください。
GET Bucket consistency	特定のバケットに適用されている整合性レベルを返します。	"GET Bucket consistency"
PUT Bucket consistency	特定のバケットに適用される整合性レベルを設定します。	"PUT Bucket consistency"
GET Bucket last access time の場合	特定のバケットで最終アクセス時間の更新が有効になっているか無効になっているかを返します。	"GET Bucket last access time の場合"
PUT Bucket last access time のように指定します	特定のバケットの最終アクセス時間の更新を有効または無効にできます。	"PUT Bucket last access time のように指定します"
バケットのメタデータ通知設定を削除します	特定のバケットに関連付けられているメタデータ通知設定 XML を削除します。	"バケットのメタデータ通知設定を削除します"
GET Bucket metadata notification configuration	特定のバケットに関連付けられているメタデータ通知設定 XML を返します。	"GET Bucket metadata notification configuration"
PUT Bucket metadata notification configuration のコマンドです	バケットのメタデータ通知サービスを設定します。	"PUT Bucket metadata notification configuration のコマンドです"
準拠設定の PUT Bucket	廃止およびサポート終了：準拠を有効にした新しいバケットを作成できなくなりました。	"廃止：準拠設定を指定した PUT Bucket"
GET Bucket compliance で確認します	廃止されましたがサポートされています：既存の古い準拠バケットに対して現在有効な準拠設定を返します。	"廃止予定：バケット準拠を取得します"
PUT Bucket compliance で確認してください	廃止されましたがサポートされています：既存の古い準拠バケットの準拠設定を変更できます。	"廃止予定：PUT Bucket compliance"

#### 関連情報

["監査ログで追跡される S3 処理"](#)

## 著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。